

いよいよ グループ

子供たちの目が輝いて…

—中央病院保育ボランティア—



富士市立中央病院の保育ボランティア活動は、小児科の先生や看護婦、職員の皆さんと話し合っ、昭和61年12月にスタートしました。活動の場が小児病棟で、直接に入院児と接するため、特に健康であることが求められ、現在9人のメンバーは年1回健康診査を受けています。

毎週水曜日の午後2時から4時まで、病室やプレイルームで“本の読み聞かせ”、“遊具や折紙遊び”などで話し相手をしています。

私たちは、医療スタッフとも、家族とも違った立場で入院児と接していますが、単調になりがちな入院生活の中で、子供たちの心に潤いが生まれ、目が輝いてくれたなら、そして、そのことが間接的に治療に役立ってくれたらなあと思っています。私たちの活動にあなたも参加してみませんか。

問い合わせ 保健婦人センター内
ボランティアセンター ☎64-7100

毎朝、登庁すると北の空を見上げてはため息をつくスタッフがいます。彼の担当する冊子の表紙にどうしても富士山の写真が必要なのですが、お山はここ一ヶ月姿を見せてくれません。彼のため息に、我々の仕事もペースダウン。お願い富士山、早く顔を

富士の今と昔 ⑤1



橋を渡った右手には市立第三保育園があります

この丘には戦前、スイカ畑や茶畑が一面に広がっていました

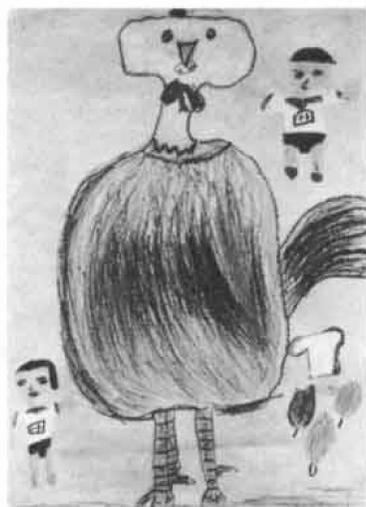


昭和四十年ころの原田・滝川にかかると「齊藤橋」です。地元

の歴史に詳しい仁藤広季さんのお話。「この橋のできる前は丸木橋でリヤカーが通るのがやっとだったね。戦前は橋もなかったよ。子供のころはよく滝川で遊んだものだ。水も豊富で、「鑑淵」という深い淵があって、そこへ飛び込まないと仲間に入れてもらえなかった。この橋ができて、道路も広がり家も建ち、随分変わったね」



須津小学校には
ちゃぼもうさぎも
がちょうもいます。
一年生はみんな
生きものがだいす
きだから、ちゃぼ
だつて友だちです。



ちゃぼがえさをたべる
ときって、口をあけてわ
らつてみるみたい。
かがぜんぶかけると
うに、まえからかいたら
よこに広がったかわい
いちゃぼになったよ。



たきぐちさつき



ちゃぼがおいかけてこ
ないように、えさをやっ
ているところだよ。
こわいかおをしてるけ
ど、しつぽはとてもきれ
い。さわってみたら、す
べすべしていたよ。



ますだひろき

こちら編集室